

# 夏季集中研修「教える・学ぶ・考える」 — “評価価値観” “会話力” をとらえ直す —

日本語を教える私たちは、日々、最善の授業をと心がけています。そのために、ときには立ち止まり、その方法や教育の在り方を振り返ってみることも重要ではないでしょうか。

今年の夏季集中研修では、2つのワークショップを行います。2日間じっくり時間をかけ、自身に内在する学習者の言語運用力に対する観点をとらえ直します。

\*\*\*\*\*

日時： 2014年8月9日(土)10~17時、8月10日(日)10~16時

※2日間連続講座です。1日だけの参加はできません。

会場： [東京大学 本郷キャンパス](#) (東京都文京区本郷7-3-1)

定員： 各ワークショップ30名(合計60名)

受講料： 一般 12,000円 / 日本語教育学会員または大学院生 10,000円

申込締切  
7月10日  
先着順にて  
受付中

## ワークショップ①【評価価値観】



「評価について考える」

講師： [宇佐美 洋 氏](#)  
([国立国語研究所](#))

アシスタント：工藤育子氏・李奎台氏(国立国語研究所)

コーディネーター：岡本能里子・品田潤子(教師研修委員)

**対象** [日本語の教育・支援に何らかの形で関わっている方\(教師志望者も含む\)](#)

日本語運用能力や学習成果を「どう評価するか」は、教育に関わる者を常に悩ませる問題です。しかし、学習者の学習環境・学習目的がこれだけ多様化している今日、「どう評価するか」という技術・手続きの側面のみを論じるのは危険であり、そもそも評価とはどういう行為なのかという、評価の本質を踏まえた議論が求められます。

本研修では様々な協働作業を通じ、評価とは評価者の価値観を色濃く反映した行為であること、その価値観が人によっていかに多様であるかということを実感していただきます。かつ、価値観の多様性を踏まえたうえで、参加者自らの社会的実践において「評価」をどうとらえどう扱っていくかについて、考察を深めていきます。

## ワークショップ②【会話力】



「課題遂行から考える会話力」

講師： [長坂 水晶 氏](#)  
([国際交流基金日本語国際センター](#))

コーディネーター：徳永あかね・菊岡由夏(教師研修委員)

**対象** [現職日本語教師](#)

どの実践現場でも、学習者の会話力育成は重要な課題の一つではないでしょうか。近年、会話力を捉えるための様々な試みが広がっています。

本研修では、それらのうち、「何がどのようにできるか(can-do)」という課題遂行の観点を取り上げ、そこから会話力について考えます。具体的には、課題遂行から会話力をはかる「ものさし」の一つとして「JF日本語教育スタンダード」を活用し、学習目標設定やタスクの作成、評価の体験を行います。そして、その過程で生じた難しさ、留意点を共有します。最後に、本研修で得た視点をどう活かせるか、その可能性と課題について、これまで自分たちの実践現場で行ってきた方法や内容を振り返りながら考えます。

## スケジュールと申込方法

◆日程：1日だけの参加はできません。2日間連続でご参加できることが応募条件です。

1日目：2014年8月9日（土）10：00～17：00

2日目：2014年8月10日（日）10：00～16：00

※1日目の終了後に講師をまじえた懇親会を予定しています（参加は任意。別途実費）。

◆定員（先着順）：ワークショップは事前選択制です。参加できるのはどちらか一つのみです。

ワークショップ①「評価について考える」 30名

ワークショップ②「課題遂行から考える会話力」 30名

◆応募条件：2日間の全日程に参加できる方で、事前課題をできる方。対象者は以下の通りです。

ワークショップ①：日本語の教育・支援に何らかの形で関わっている方（教師志望者も含む）。

※事前課題は必ず期日までにメール添付でお送りください。

ワークショップ②：現職日本語教師。

◆申込方法：申込書をEメール添付でお送りください。お電話等では承りません。

申込書は[日本語教育学会ホームページの教師研修ページ](#)からダウンロードできます。メールの題名は「夏季集中研修申込」としてください。申込書が届き次第、到着順に受領メールをお送りします。申込書を送っても受領メールが到着しない場合は、必ずご自身の責任においてメールの再送や電話等の別手段にてご確認ください。なお、本研修に関する連絡は基本的にEメールのみで行いますのであらかじめご了承ください（事務局対応時間は平日9～18時です）。

◆申込締切：2014年7月10日（木）※締切日前でも定員に達し次第、募集を終了します。

◆申込および問合せ先：公益社団法人日本語教育学会 教師研修委員会事務局

〒101-0065 東京都千代田区西神田2-4-1 東方学会新館2階 [公益社団法人日本語教育学会](#)

TEL：03-3262-4291 FAX：03-5216-7552 E-mail：kyoshikenshu@nkg.or.jp

### ◆◆◆よくあるご質問 Q&A◆◆◆

#### 1. 2つのワークショップに参加できますか？

できません。申込時にワークショップを一つだけ選択してください。本研修は、グループワークを中心に2日間かけて参加者同士でじっくりと取り組むワークショップ形式の講座です。

#### 2. 地方から参加します。大学の施設などに宿泊することができますか？

できません。お手数ですが参加者ご自身で近隣のホテル等のご予約・手配をお願いいたします。

#### 3. 会場近くに昼食をとる場所がありますか？

大学の夏季休業中のため、基本的に学内の食堂等は営業していません。駅の近くにレストランやコンビニ等は多数ありますので、ご持参されることをおすすめいたします。

#### 4. 受講料はどのように支払いますか？

事前銀行振込です。海外在住の方は、VISA・マスターカードでのお支払いも承ります。

## ワークショップの事前課題

### ワークショップ①【評価価値観】

#### 「評価について考える」

講師：宇佐美 洋 氏（国立国語研究所）

アシスタント：工藤 育子氏・李 奎台氏（国立国語研究所）

コーディネーター：岡本能里子・品田潤子（教師研修委員）

#### 【事前課題】

あなたのこれまでの社会生活の中で、まったく同一の対象に対する評価が人によって大きく食い違い、戸惑った経験を簡潔に記述してください。また、なぜそのような食い違いが起こったのか、その理由についても考察してみてください（経験の記述・理由の考察を含め 600～800 字程度）。

なお、ここでいう「評価」とは、「いい—悪い、好き—嫌いなど、何らかの価値づけを伴う判断」のことを広く指し、教育現場における評価のみをさしているわけではありません。

※お送りいただいた事前課題への回答は、参加者全員で共有します。

#### 【事前課題提出日】2014 年 7 月 21 日（月・祝）Eメール必着

事前課題に対する回答は、テキストファイル、あるいは Word ファイル（「.doc」でも「.docx」でも可）の形式で作成し、Eメールに添付して日本語教育学会事務局 [kyoshikenshu@nkg.or.jp](mailto:kyoshikenshu@nkg.or.jp) 宛に提出してください。メールの題名は「ワークショップ①事前課題（受講者氏名）」としてください。

#### 【当日のスケジュール（予定ですので、一部変更する場合がございます）】

| ◆ 1 日目 ◆ |   |
|----------|---|
| 午前       | 趣旨説明・アイスブレイク<br>作業 A 評価ルーブリック作成とその検討<br>1. グループ内で学習者の作文を読み、それらの評価を行うためのルーブリックを協働作業により作成するとともに、実際に学習者作文に対する評価を行う。  |
| 午後       | 2. 他のグループが作成したルーブリックを用いて学習者作文に対する評価を行い、ルーブリック作成グループが行った評価結果との食い違いを確認するとともに、なぜそうした食い違いが出てしまったのかについて議論を行う。  |
| ◆ 2 日目 ◆ |   |
| 午前       | 作業 B 生活場面における文章の評価とは？<br>1. 同じ状況設定で書かれた「生活場面における文章」を複数読み、個人で順位付けをする（宿題）。<br>2. 小グループ内で評価結果を突き合わせ、その食い違いを確認する。かつ、各自順位付けの理由を説明し合うとともに、なぜそうした食い違いが出てしまったのかについて議論を行う。 |
| 午後       | 3. グループ内で話し合った内容をまとめ、プレゼンテーションを行う。<br>4. 研修全体で得られた気づき・学びを振り返るとともに、そうした気づき・学びを参加者それぞれの社会的実践の中にどう活かしていくかについて議論を行う。  |

※ワークショップ②をご希望の方は次頁をご覧ください。申込書は最終頁にあります。

## ワークショップの事前課題

### ワークショップ②【会話力】

#### 「課題遂行から考える会話力」

講師：長坂 水晶 氏（国際交流基金日本語国際センター）  
コーディネーター：徳永あかね・菊岡由夏（教師研修委員）

#### 【事前課題】

JFスタンダードの概要をつかんでおいていただくために、次のページを読んできてください。

国際交流基金 JF 日本語教育スタンダード 「JF 日本語教育スタンダードとは」

<<http://jfstandard.jp/summary/ja/render.do>>

※ページ後半にあるダウンロード資料は課題の対象ではありません。

「会話力」についての参考文献をお探しの方には、以下のものをお勧めします。

#### 【参考文献】

- ・ 牧野成一他（2001）『ACTFL-OPI 入門—日本語学習者の「会話力」を客観的に測る—』アルク
- ・ 国際交流基金（2007）『話すことを教える』ひつじ書房
- ・ 根岸雅史他（2007）『コミュニカティブ・テストングへの挑戦』三省堂
- ・ 長坂水晶，押尾和美（2013）「JF 日本語教育スタンダードに準拠した口頭テスト—課題遂行能力測定のためのロールプレイトスクと評価指標の作成—」『言語文化と日本語教育』46号 70-73 お茶の水女子大学 <[http://jfstandard.jp/information/attachements/000184/oshio\\_nagasaka131225.pdf](http://jfstandard.jp/information/attachements/000184/oshio_nagasaka131225.pdf)>
- ・ 日本語 OPI 研究会（「OPI 入門」「OPI 資料集」など）<<http://www.opi.jp/>>

#### 【当日のスケジュール（予定ですので、一部変更する場合がございます）】

|          |  |
|----------|--|
| ◆ 1 日目 ◆ |  |
| 午前       | 講義：「会話力」をどう捉えるか／JFS 準拠口頭テストの概要               |
| 午後       | グループワーク：<br>現場と学習者に合わせたパフォーマンスタスクの作成・想定会話の作成 |
| ◆ 2 日目 ◆ |  |
| 午前       | 発表：作成したタスクと作業を通して得た視点や課題の発表/共有               |
| 午後       | 話し合い：<br>「会話力」をどのように捉えるか/タスクと評価方法を現場に合わせるには  |

※申込書は次頁にあります。

【日本語教育学会教師研修委員会宛】メール kyoshikenshu@nkg.or.jp FAX 03-5216-7552

「夏季集中研修」(2014 年 8 月 9 日～8 月 10 日)

参加申込書

|  |  |
|--|--|
| 氏名   | (漢字)<br>(ローマ字)   |
| 所属・職名  | 所属： 職名：  |
| 会員種別   | <input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 日本語教育学会会員 [No. ] <input type="checkbox"/> 大学院生  |
| ワークショップの参加希望   | 参加を希望するワークショップに一つだけ☑をつけてください。先着順にて決定します。<br><input type="checkbox"/> ワークショップ①「評価について考える」(講師：宇佐美洋氏)<br><input type="checkbox"/> ワークショップ②「課題遂行から考える会話力」(講師：長坂水晶氏)    |
| 懇親会の参加希望   | 1 日目の終了後 18～20 時頃、会場近くの店にて講師との懇親会を予定しています。<br>事前予約が必要ですので、一つだけ☑をつけてください。参加費別途 (3,000 円程度)。<br><input type="checkbox"/> 懇親会に参加する <input type="checkbox"/> 懇親会に参加しない |
| 住所   | 〒 <input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> その他   |
| 電話   | Tel： <input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> 携帯   |
| FAX  | Fax： <input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> なし   |
| E-mail<br>携帯アドレス不可   | ※連絡の基本は E メールとなりますので、間違いがないかご確認ください。   |
| 1. 受講動機を簡単にお書きください。<br>※文字数等は問いませんが応募用紙全体が A4, 1 枚に収まるようお願いいたします。  |  |
| 2. 日本語教育経験を簡単にお書きください(機関名, 期間, 対象者, 授業科目等)。<br>※日本語教育経験年数 ( ) 年  |  |
| 3. この研修コースを何で知りましたか。該当するものに☑をつけてください。<br><input type="checkbox"/> (1) 学会からのメール <input type="checkbox"/> (2) その他からのメール ( ) <input type="checkbox"/> (3) 学会ホームページ<br><input type="checkbox"/> (4) 学会からのチラシ <input type="checkbox"/> (5) 友人・知人 <input type="checkbox"/> (6) 大学・日本語学校等機関 ( )<br><input type="checkbox"/> (7) その他 ( ) |  |
| 4. 当日研修の様子を記録・広報等の使用目的で写真撮影をいたします。<br>該当するものに☑をつけてください。 → 研修当日の撮影を <input type="checkbox"/> 承諾する <input type="checkbox"/> 承諾しない  |  |

以上